

© 2023 maki	※ 無断複写(転用・転載)はご遠慮ください											
サービス定義	だれのため	将来的なアウトプットを視野にいれた読書をしたい人のため										
	どんなサービス	自分にとって大事な本を見つけ、アウトプットに繋げるための読書メモサービス										
ターゲット	将来的なアウトプットを視野に入れた精読をしたいが、乱読と精読を通して自分と向き合うことができないために、表現に値するアウトプットができずにいる人											
市場	本についてなんらかのアウトプットをしたい人、書くことを学びたい人											
課題	乱読と精読を通して自分と向き合うことができない					コアバリュー	自分にとって大事な本を見つけ、独自の読み方をする事で、自分の体験を絡めて文章に落とし込むことができる					
阻害要因	- アウトプットに必要な乱読、精読の手順がわからない - 合わない本を読んてしまう - つまづいたことを認めることができない - 精読メモ段階で著者の意見や引用された事実に対して自分の意見がない - 要約が難しい(小さなアウトプットから始めないため) - 読書メーターやamazonレビュー、twitter で発散して満足してしまう。 - 読書メーターやamazonレビュー、twitter に書かれた感想で満足してしまう					サブバリュー	- 乱読によって引き出しが増える - 他者の評価や空気に左右されにくくなる - 他者と本と自分との関係について話せるようになる - 独自の読みどころを見つけることができる					
キャスト	ゴール					機能例	メモ					
社会	ソーシャルゴール	- 独自の問題設定ができる人が増える。 - 表現に値する自己の発信が増える - 他者との相互評価に閉じるのではなく、自分の意見を論理立てることができる人が増える										
読書メモをする人	ライフゴール	- アウトプットすることで仲良くなりたい人と出会うことが出来ている - 楽しく乱読している。 - 自分にとって大事な本を見つけることができています。 - 自分の意見を絡めた独自の読み方ができている - 独自の問題設定を持っている。										
	感情的ゴール	- 自分の好きな型や意見が見えてきて、自分に対する理解が深まり自己観察が楽しい。 - 文章が好きな人たちと意見を交わすことができて楽しい。 - ものの見方が広がり、独自の視点をもつことができて楽しい - 研究に値する疑問(問題設定の基盤)が見えてくるのが楽しい										
		機能的ゴール	- 利用者が合わない本を読み続けたい決断をできるようにする					- 読む読まないを決断する項目を作る				
	- 利用者がつまづいた時にアドバイスできるようにする					- 基礎作りのための優しい本を恥ずかしがらずに読むことを進める文章をつける						
	- 利用者が自分にとって大事な本(精読する本)と認識できるようにする					- メモの数をカウントし、その数が自分にとって大事な本とわかるように可視化する						
	- 利用者が精読に進めるか、乱読に戻るかの判断をできるようにする					- メモの数が本の1/4ならもう一度乱読。メモの数が1/4以下なら精読。						
	- 利用者が著者の意見と事実(引用)を抜き出しやすいようにする					- メモ欄に著者の意見、引用された事実を設置する						
	- 利用者が著者の意見や事実に対して自分の意見を書きやすいようにする					- 著者の意見に対して、自分の意見を書けるよう設置する						
	- 良い論文やネット記事にも触れてもらうため、本というパッケージだけに絞らないようにする					- ネットの記事や論文もメモとして投稿できるようにする						
- 最初の1ページ(キャプチャ)を振り返りやすくする					- 最初のメモとわかるように可視化する - この頃から今はご自身にどのような変化がありましたか？と吹き出しが出るようにしたい。	- この時と読み終わったあとで、自分がどう変化したかわかるようにしたい						
- 本の核となる時代背景から読む					- 本の核となる時代背景と地域のメモ入力欄	- 1790~1799年(『情歴』pp184-185)、フランス						

			- 著者のプロフィールから読む - 声から読む - 忙しい人、どんな状況でも読めるよう耳から読むことができるようにする	- 小さなアウトプット - 著者のプロフィール入力欄 - voicevoxを使う。 - 楽しく読めるよう声に気を遣う。	- 生年月日。生まれた場所。家族、主要作品  - 時代背景が見えてくると、著者がなぜその物語を書きたかったかが見えてくる。
1.ソーシャルゴール	サービスに触れ個人的にゴールを達成した人が増えていったらどんな社会になるか				
2.ライフゴール	ユーザーが本来行きたかった場所で、どう感じてどういう生活を送っているか				
感情的ゴール	2を達成するための感情的ゴール				
機能的ゴール	2を鉄製するための機能的ゴール				
参考					